所属・氏名（ 医療栄養学部　医療栄養学科　氏名：辻本洋子 ）

著書、学術論文等の名称		単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
1	（学術論文） 小学生の楽しく食べることと食生活・生活習慣との関連性	共著	2009 年 2 月	大阪教育大学紀要第Ⅱ部門社会科学生活科学第 57 巻第 2 号 P.49～60	小学生が楽しく食べるための背景を明らかにするために食事を中心とした日常生活に関する質問紙調査を実施した結果、楽しく食べるためには、食事づくりに児童を参加させ、食事中の会話を楽しめるよう食環境を整え、家族揃って食べる機会を増やすこと、食のリズムを整えることの重要性が示唆された。 辻本洋子、奥田豊子
2	（学術論文） 小学生の心身の健康に及ぼす家族コミュニケーションの影響	共著	2009 年 6 月	大阪教育大学家政学研究会 生活分化研究 48 P.11～20	小学生の家族コミュニケーションと心身の健康状態や学習態度との関連性を検討した。家族コミュニケーションを良好にすると心身の健康状態が良好になり、学習面にも良い影響を及ぼしていることが示唆された。また、家族コミュニケーションを良好にするためには食事づくりに子どもを参加させるなど食環境を整えることも重要であることが示唆された。 辻本洋子、奥田豊子
3	（学術論文） 小学生の食生活と健康状態や学習態度との関連性	共著	2009 年 9 月	大阪教育大学紀要第Ⅱ部門社会科学生活科学第 58 巻第 1 号 P.15～26	児童の食を中心とした生活習慣と心身の健康状態や学習態度との関連性を検討した。その結果、心身の健康度には、家族そろって、よくかんでおいしく食べることや、快便、快眠などの食生活や生活習慣が大きく影響していること、さらに、健康度が高いことは「授業中眠くない」、「宿題をきちんとする」等の学習面にも影響を及ぼしていることが示唆された。 辻本洋子、奥田豊子
4	（学術論文） 大阪府内小学生の朝食摂取頻度と食行動・生活習慣との関連《査読付き》	共著	2015 年 3 月	大阪市立大学生活科学研究誌 Vol.13(2014) P.55～63	朝食摂取頻度と食習慣・食意識・食行動・健康状態（肥満度も含めて）等との関連について検討した。朝食摂取を習慣化することにより生活リズム、食リズムが整い、心身の健康増進が良好になることに繋がる。また、朝食を共食し、楽しく食べることが朝食摂取に有効である。朝食欠食を改善するには経済的配慮を含めた社会環境の整備が重要である。 辻本洋子、奥田豊子、小山達也、由田克士
5	（　　）				